「洛西ニュータウン魅力発見・発信プロジェクト」進行中！

洛西ニュータウンの魅力を発掘し，ニュータウン内外を問わず多くの住民の皆さんに発信することを目的に立ち上がった「洛西ニュータウン魅力発見･発信プロジェクト」。新規プロジェクトチームでは，“通りの愛称づくり”や“洛西検定”など，様々な事業展開を検討していますが，その中でもメイン事業としてニュータウン内の魅力スポットを巡る「まちあるきツアー」を企画しています。先日そのプレツアーを部会委員限定で実施し，コース案などの確認を行いました。今後，同チームでは，四季折々，季節ごとに住民の皆さんにご参加いただくツアーの開催を目指し，鋭意取り組んでまいりますのでご期待下さい。詳細が決まりましたら，委員会や創生推進ニュース等で案内いたしますので，ご確認下さい。

大蛇ヶ池公園愛護協力会と公園内を見学

「らくさいさくら祭」に委員会ブース出展！

今年も「らくさいさくら祭」（平成 23 年 4 月 2,3 日開催，小畑川中央公園，ラクセーヌ専門店街周辺一帯）に委員会ブースを出展しますので，ぜひご参加下さい。

出展内容（予定）

参加者には委員会特製「花とみどりのMAP」プレゼント!!

☆　**委員会活動紹介パネル展示**

☆　**身近な樹木　グリーンウォーク**

・午前 10 時 30 分，午後 1 時 30 分出発，約一時間のコース
・委員会ブースにて当日受付。各回先着 20 名，参加無料！

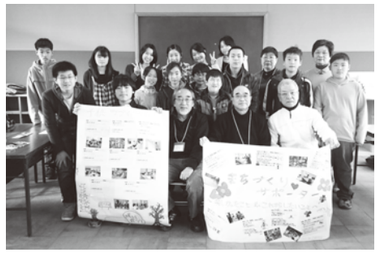
子どもまちづくりサポーター活動報告

２月19日（土）に洛西中学校において，今年度最後となる「子どもまちづくりサポーター会議」を開催し，映像によりこれまでの活動を振り返りました。

身長が伸びたり，髪形が変わったり･･･，一年も経つと驚くほどの成長ぶり。「初めて集まったときはこんなんやったっけ？」と，一同大いににぎわいました。

休憩タイムでは，クイズやゲームを楽しんだ後，みんなで「楽しかったこと」や「これからしたいこと」をカードに書き込み，それらを集めてコラージュ風にまとめました。これは「まちづくり交流フォーラム」のギャラリーにて展示されました。

一年もあっという間に過ぎてしまいましたが，今後も「子どもまちづくりサポーター」として「まちづくり活動」に参加したいと考えています。



発行

平成 23 年 4 月
洛西ニュータウン創生推進委員会
（事務局：京都市西京区役所洛西支所まちづくり推進課）
住所：〒610-1143　京都市西京区大原野東境谷町2-1-2
電話：075－332－9318　　FAX：075－332－8187

京都市印刷物　第235001号

平成 23 年 4 月発行

洛西ニュータウン創生推進ニュース　vol.27

「第17回洛西ニュータウン創生推進委員会」を開催！
～ 平成23年度の重点取組や部会委員の公募等について議論 ～

「第１７回洛西ニュータウン創生推進委員会」が，平成23年３月3日（木）に洛西総合庁舎で開催されました。

平成23年度の委員会における重点取組として，①連携の強化，②委員会広報（広報物，ホームページ）の充実，③委員会の財源及び拠点の検討の３点について議論されました。特に①では，地域住民の皆さんとの日常的な交流を目指し，委員会内に設置されている４部会の活動のオープン化や委員会事業における連携のあり方の検討を進めていくこととなりました。

また，委員会のまちづくり活動をさらに幅広く展開していくため，今年度も部会委員の公募を実施することとなりました。まちづくりの主役は，住民の皆さんです。多くのご応募をお待ちしています。公募について，詳しくは2.3面のお知らせをご覧ください。

最後に，部会連絡協議会及び各部会の活動報告や，委員会組織のあり方について検討しているワーキンググループの報告，「洛西ニュータウン魅力発見・発信プロジェクト」事業の一つである「まちあるきプレツアー」の開催報告が行われました。「洛西ニュータウン魅力発見・発信プロジェクト」については，4面をご覧下さい。

◆「第17回委員会」で出された主な意見

・「まちづくり勉強会」，「まちづくり交流フォーラム」で出された意見・課題についてのフォローを検討する場を設ける必要がある。
・委員会の拠点を設置したら，そこで広くニュータウンで活躍されている方々についてのパネル展示を行うなど，人的資源を紹介する場として活用していければいいと思う。
・「洛西ニュータウン魅力発見・発信プロジェクト」において，“洛西検定”の実施を計画しており，検定の問題になりそうなトピックがあれば随時ストックし，楽しい検定にしたい。
・事業者との連携については，特にニュータウン内に多くの住居を持つＵＲ都市機構とのまちづくりの連携が重要である。
・京都市会において委員会に関する質疑応答があり，委員会認知度の高まりを実感した。
・部会活動のオープン化を推進し，住民と多くの接点を持つことによって，自分たちの方向性を確認していきたい。
・サポーター制度など，委員会活動へのゆるやかな参加のあり方について検討していく必要があるのではないか。
・平成23年度も委員会活動を幅広く展開していくが，前年度事業の総括を踏まえながら，部会連絡協議会で取組の優先度を整理していきたい。

回覧														